



キャットアイトレッドミル

MODEL EC-T330

取扱説明書



Cateye
FITNESS

Cateye
FITNESS

TREADMILL
EC-T330

この取扱説明書の使い方

まず最初に「スタート編」をお読みいただき、設置時の注意事項をふまえ、機器を組み立ててください。キャットアイ・トレッドミル EC-T330 のご利用方法は「オペレーション編」をお読みになりますと、お試しください。

「リファレンス編」では、メンテナンスやトラブル時の対処方法をご説明しております。必要に応じてご覧ください。

目次

スタート編

- 1 設置上のご注意 7
- 2 組立から始めましょう 8








オペレーション編

- 1 運動準備と注意事項 15
- 2 セーフティーキーの装着 16
- 3 クイックスタート 17
- 4 目標を設定してのトレーニング 19

リファレンス編

- 1 日常メンテナンス 22
- 2 定期メンテナンス 23
- 3 トラブルと処理 25
- 4 取扱上の注意 26
- 5 保証修理サービス/補修部品 27
- 6 製品仕様 28





各部品が揃っているか、お確かめください。

 本体	 ハンドルマスト	 コントロールユニット
 セーフティーキー		
 A  B  C	 取扱説明書 保証書	 付属工具 ・六角レンチ (T型)
取付ネジセット ・ A : M12 ナット 6 本 ・ B : スプリングワッシャー 6 本 ・ C : M4 小ネジ 4 本		

はじめに

このたびは、キャットアイ・トレッドミル EC-T330 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。キャットアイ・トレッドミル EC-T330 は誰でも簡単に操作でき、歩行からランニングまで幅広い層の方々に運動を楽しんでもらうことをテーマとしました。LED のメインディスプレイにより熟年層の方にも見やすい様、考慮しており、操作についてはボタンひとつですぐにトレーニングを始めるほか、ご自身の体重や運動時間を設定することもできます。無理な運動を短時間続けるよりも楽な運動で時間をかけることで日ごろの運動不足を解消でき、体にたまった余分な脂肪分を燃焼させて心肺持久力の向上に役立ててください。継続して使用いただくことで若い女性のシェイプアップから中年の方の健康維持／増進・リハビリ、また鍛練者の方々まで幅広く活用していただけます。ご使用いただく前に一度この取扱説明書を最後までお読みいただき、本製品をご理解いただいた上でご利用願います。なお、この説明書は保証書と共に大切に保管してください。

本文中のマークの意味

-  マークのついた文章は、安全上及び取り扱い上非常に重要です。必ず守ってください。
-  **警告**：守らなかったとき死亡あるいは人体に重大な危害が及ぶ場合がある事項です。
-  **注意**：守らなかったとき人体に危害が及んだり機器が破損する場合がある事項です。
-  **参考**：知っておくと便利な事項または補足事項について説明しています。


















安全にお使いいただくために

本機を使用する前には、必ずこの注意事項及び取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。お読みになった後はいつでも見られるところに大切に保管してください。

警告

- ・心臓病（狭心症、心筋硬塞など）、高血圧症、糖尿病、呼吸器疾患（ぜんそく、慢性気管支炎、肺気腫など）、変形性関節症、リュウマチ、痛風、妊娠中の方、その他病気や障害のある方はエクササイズを始める前に、必ず専門医師にご相談ください。
- ・日頃運動していない方が急にはげしい運動をすることは危険な場合がありますので、徐々に運動強度を上げるようにしてください。
- ・トレーニング中に気分が悪くなったり、体に異常を感じたときは、直ちに運動をおやめください。
- ・お子様・ご病人・お身体の不自由な方が本機をご使用になるときは、必ず誰かが付き添うようにしてください。

注意

- | | | | |
|--|---|---|--|
|  | 電源プラグをコンセントに差し込んだままで放置しないでください。 |  | 通気孔を塞いだ状態で本機を使用しないでください。通気孔に糸くずや髪の毛がつかないようにしてください。 |
|  | 電源プラグはスイッチをオフにしてから抜いてください。コードを引っ張らずにプラグをもって抜いてください。 |  | 開口部に物を落としたり入れたりしないでください。 |
|  | スプレー製品及び、引火性物質が多い場所では本機を使用しないでください。 |  | 取扱説明書に述べられている以外の使用方法はさけてください。弊社の純正部品以外は使用しないでください。 |
|  | コードは温度の高い場所から離してください。 |  | 本体（走行板、走行ベルト）に過度の圧力、抵抗をかけないでください。 |
|  | 延長コードは使用しないでください。施設側での電源アースは必ず取ってください。誤作動の原因になります。 |  | 屋外及び直射日光のあたる場所での使用はさけてください。 |
|  |  |  | 高温多湿の所では使用しないでください。 |
|  |  |  | 濡れた手でプラグや本機は触らないでください。 |
| コードやプラグに損傷が生じたときや、本体が正常に作動しないとき、落下したり破損したとき、水に濡れたとき等は、使用しないでください。検査・修理の為、弊社製品サービス課に電話してください。 | |  | お子様・ご病人・お身体の不自由な方が本機をご使用になるときは、必ず誰かが付き添うようにしてください。 |

各部の名称

本体



ドリンクホルダー

セーフティーキー
ポイント

電源ケーブル

電源スイッチ

走行ベルト

サイドレール

トレーニング条件のセット時や、
非常時に乗ることができます。

エンドキャップ

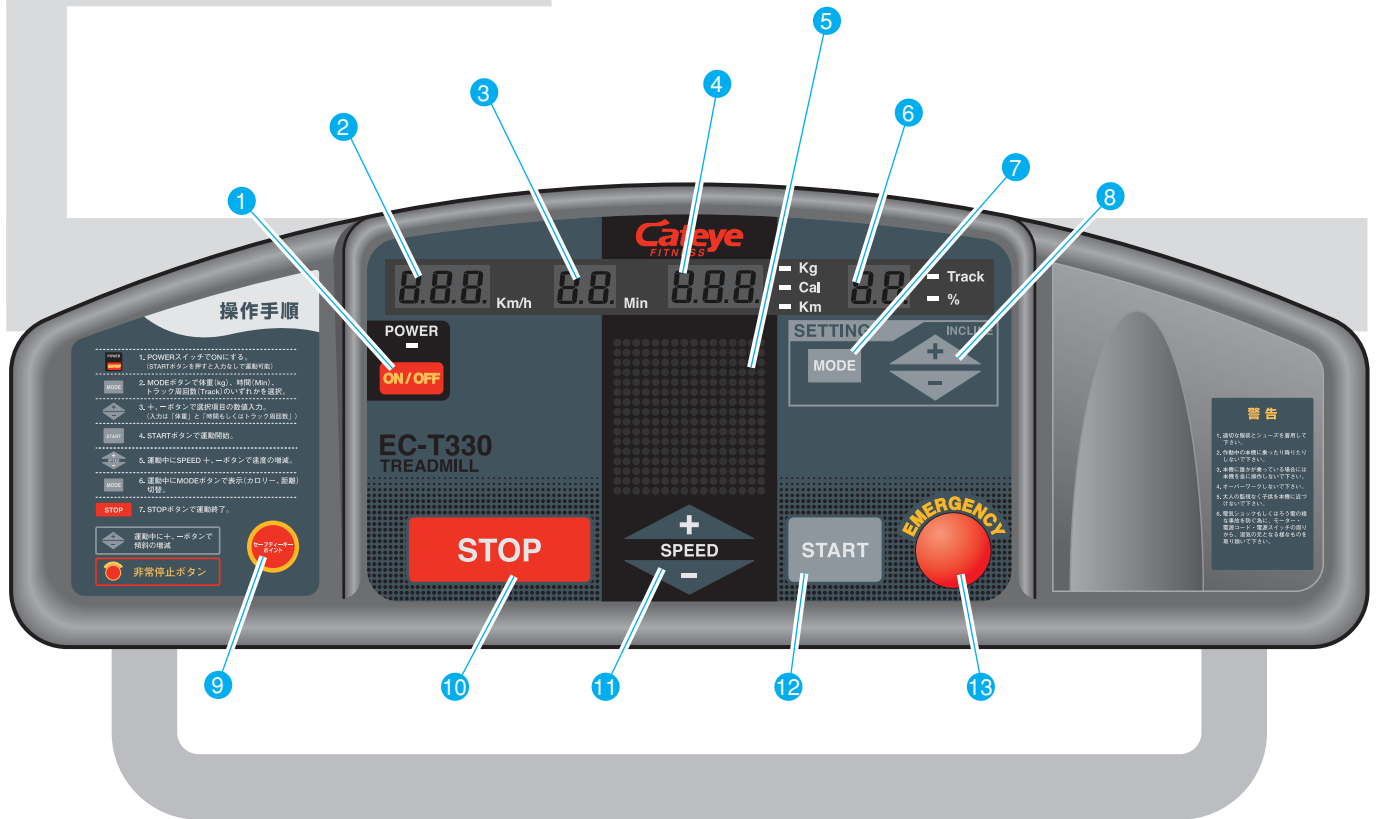
コントロールユニット

ハンドル

ハンドルマスト

モーターカバー

コントロールユニット



1 POWER スイッチ

POWER スイッチがオンのとき、緑のランプが点灯します。

2 速度表示

現在の速度を表示します。

3 時間表示

入力時

運動時間の設定値を表示します。

トレーニング中

トレーニングを開始してからの経過時間を表示します。

4 距離／消費カロリー表示

入力時

ご自身の体重の入力設定を表示します。

トレーニング中

トレーニングを開始してからの走行距離もしくは、消費カロリーを表示します。

5 メインディスプレイ

スタート前に設定したトレーニング時間もしくは、トラック周回数の数字が表示されます。外周は秒数もしくは、200 mmトラックを疑似表示します。

6 傾斜表示

入力時

トラック周回数の入力設定を表示します。

トレーニング中

現在の傾斜 % を表示します。

7 MODE ボタン

入力時

体重 (4)、運動時間、周回数 (6) の切り替えを行います。

トレーニング中

現在の傾斜 % を表示します。

8 モード設定／傾斜 増減＋ボタン

入力時

体重、運動時間、トラック周回数の数値を増減します。

トレーニング中

傾斜角度を増減します。

9 セーフティーキーポイント

マグネット式の安全装置です。

10 STOP ボタン

クールダウンを途中で終了させたり、トレーニングを終了します。

11 SPEED ボタン

トレーニング中

走行ベルトの速度を増減します。

12 START ボタン

トレーニングを開始します。

13 EMERGENCY ボタン

トレーニング中の場合、速やかに速度が停止します。

STARTING UP

スタート編

- 1 設置上のご注意 7
- 2 組立から始めましょう 8

1

設置上のご注意

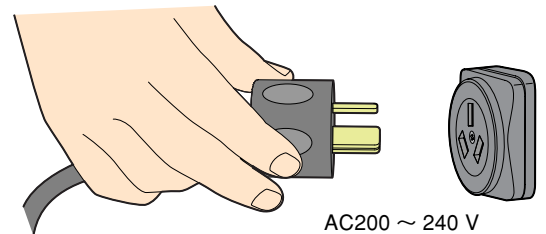
本製品を設置する上で、いくつかの注意事項があります。以下の注意事項を確認し、適した場所でのトレーニングを行ってください。

次のような場所への設置は避けてください

- ・設置場所の床強度が弱い。
- 【参考】 本製品の重量は 197 kg でその上に利用者が乗ると 200 kg 以上になります。設置場所はコンクリート床面を推奨します。木造床で使用するときは、重量分散用の厚板を敷くか、もしくは床の補強を行ってください。
- ・屋外及び直射日光が当たる場所。
- ・高温多湿の場所。
- ・傾斜のある場所。
- ・設置後、周囲にスペースがなくなる。

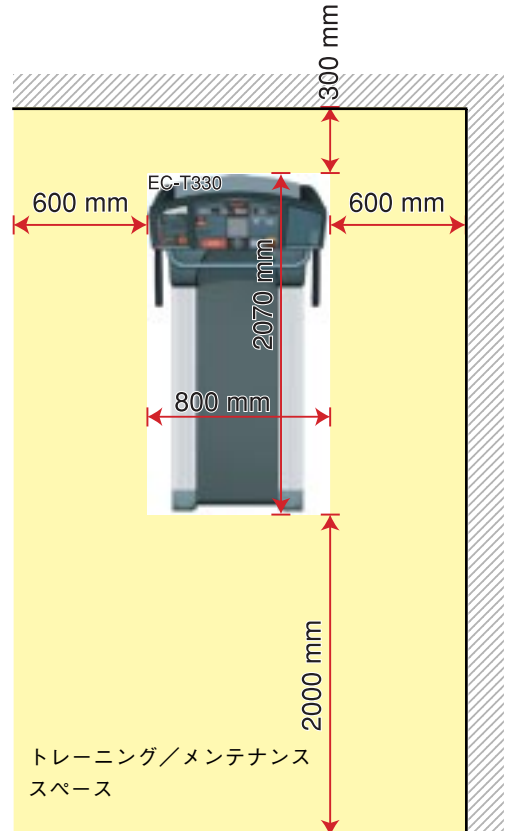
電源について

- ・本製品は AC200 ~ 240 V 電源です。これ以外の電源は使用しないでください。
- ・電源プラグは図のような形状になります。通常の家賃用コンセントではご利用になれませんのでご注意ください。
- 【注意】 延長コードは使用しないでください。



設置スペースにはゆとりを

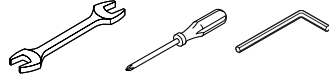
- ・本製品を使って安全なトレーニング、メンテナンス作業を行っていただく為に、本製品の周囲には右図のスペースが必要です。このスペース以上を確保できる場所に設置するようにしてください。



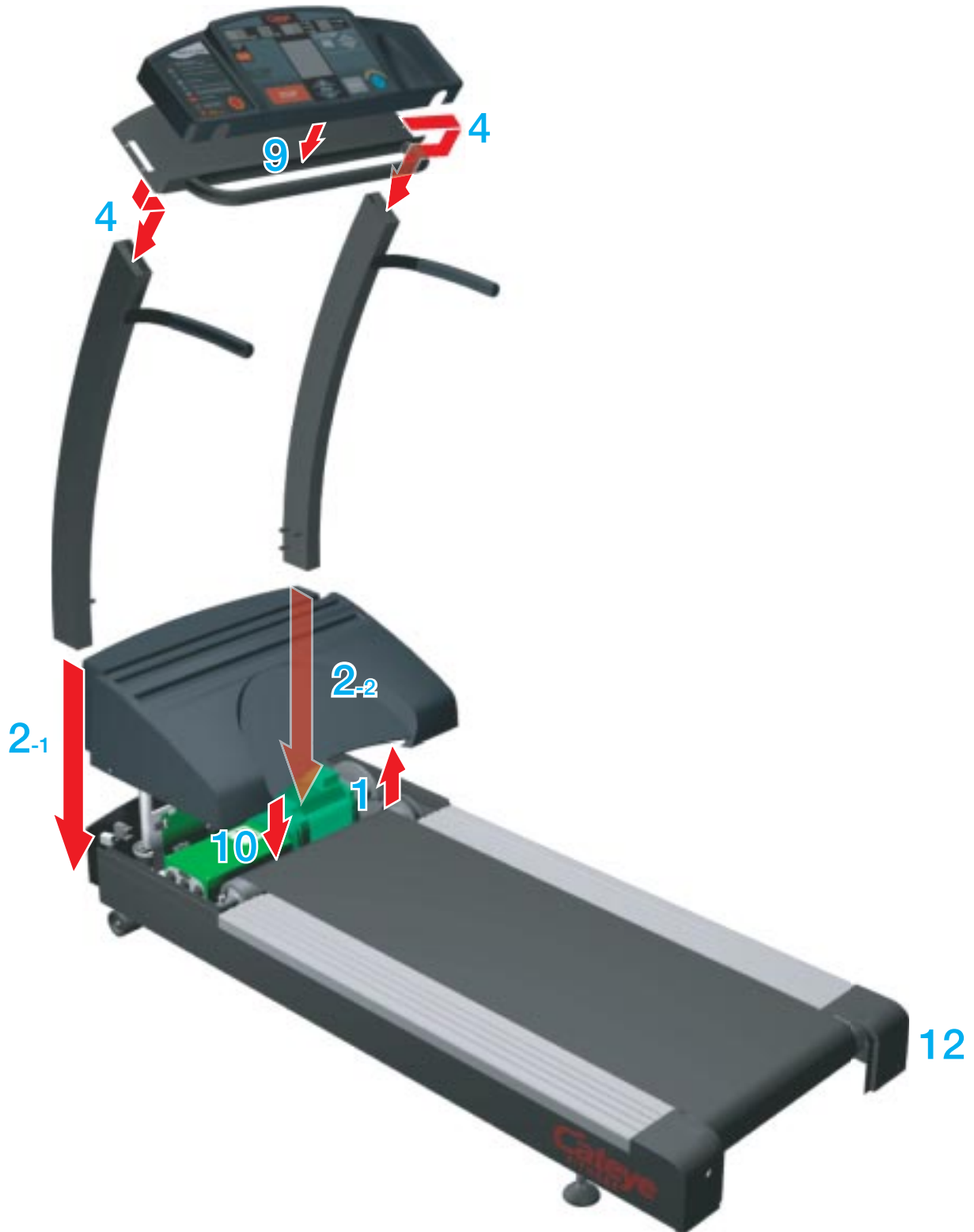
2

組立から始めましょう

本製品の組み立てには次の工具が必要です。あらかじめ、準備しておいてください。



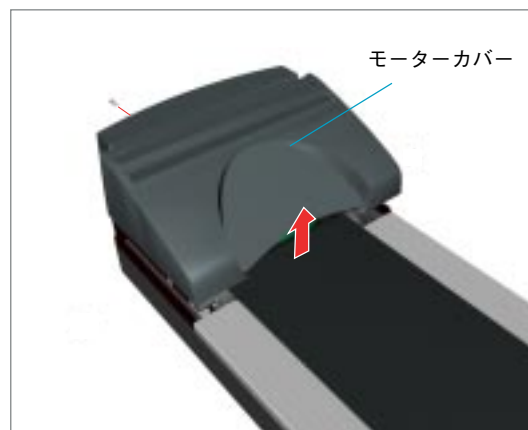
- 19 mmスパナ
- プラスドライバー
- 6 mm六角レンチ



1

モーターカバーを取り外します

- モーターカバーの M4 小ネジ (1 本) を外して、本体からモーターカバーを外します。



2

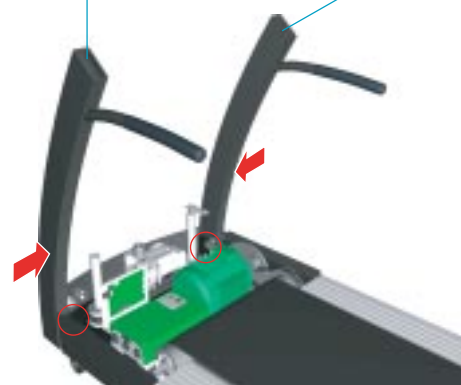
ハンドルマストを本体に取り付けます

- はじめにハンドルマスト (左) のボルト部分と、本体左側面の穴の位置を合わせ奥まで差し込みます。
- 上からボルト ①、② に平ワッシャ C とスプリングワッシャ B を入れ、ナット A で仮止めします。
- 本体の下からボルト ③ に平ワッシャとスプリングワッシャ B を入れ、ナット A で仮止めします。
- 次にハンドルマスト (右) のボルト部分を本体右側面の穴に合わせ、ボルトの半分だけ差し込みます。
- ボルト ④ に平ワッシャ C とスプリングワッシャ B を入れナット A で軽く締めます。
- 本体の下からボルト ⑤ へ平ワッシャ C とスプリングワッシャ B を入れナット A で軽く締めます。

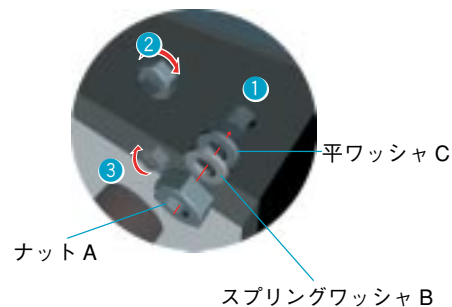
△注意 ・下のボルト ⑤ へナットが入らない場合は上のナットを緩め、ハンドルマストと本体のスペースを広げてください。

- 半分だけ差し込んだハンドルマストを奥まで差し込みます。
- ボルト ⑥ に平ワッシャ C とスプリングワッシャ B を入れナット A で仮止めします。
- ④、⑤ のナットを仮止め程度に締め直します。

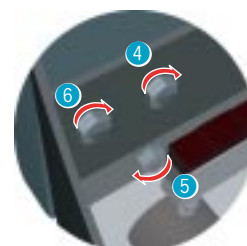
ハンドルマスト (左) ハンドルマスト (右)



ハンドルマスト (左) と本体の固定



ハンドルマスト (右) と本体の固定

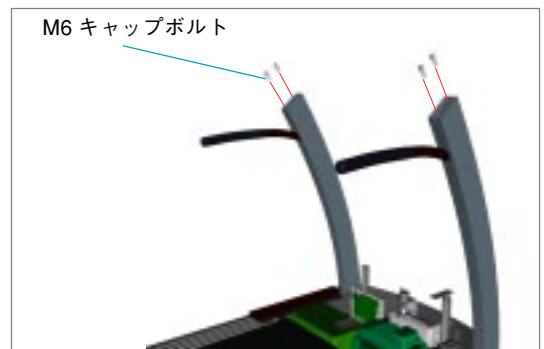


3

ハンドルマストのボルトを外します

- ・左右のハンドルマストに取り付けられた M6 キャップボルト（4本）を取り外します。

参考 用意した 6 mm 六角レンチをお使いください。



4

コントロールユニットベースをハンドルマストに取り付けます

- ・コントロールユニットからコントロールユニットベースを取り外します。
- ・コントロールユニットベースをハンドルマストに合わせ、先ほど取り外した M 6 キャップボルト（4本）で固定します。

参考 M6 キャップボルトは、6 mm 六角レンチでしっかりと締め付けてください。

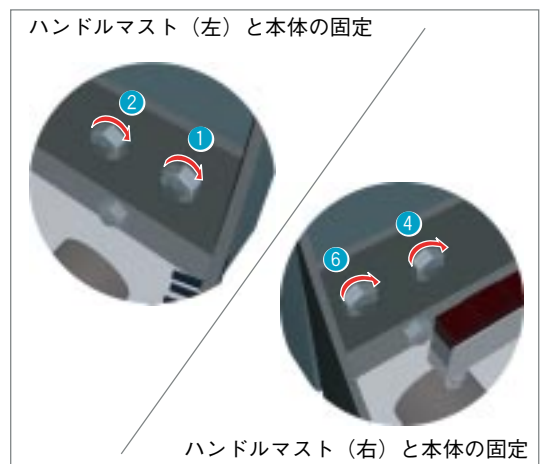


5

左右のハンドルマストを固定します

- ・仮止めだった左右のハンドルマストのナット（6ケ）のうち上のナット ①、②、④、⑥（4ケ）を固定します。

参考 下の2ケのナットは組み立て完了後、電源が入る状態にしてから行います。



6

ハンドルマスト（左）にケーブルコードを通します

- ・本体インバータに接続されたモジュージャック付きケーブルコードと 3P ケーブルコードをハンドルマスト内側の穴から内部に引き込み、コントローラーベースの角孔から、50 cm くらい上部に出してください。



7 ケーブル先端のコネクターを接続します

- コントロールユニットをひっくり返し、コネクターを次の手順でコネクターを接続します。
- ケーブル先端のコネクター（モジュージャック）をコントロールユニット基板の端子（黒）接続します。
- ケーブル先端のコネクター（3P）をコントロールユニット基板の端子（INCLINE）接続します。

コントロールユニット（裏面）



8 コントロールユニットを取り付けます

- コントロールユニットとコントロールユニットベースを小ネジDで固定します。

△注意 コントロールユニットをコントロールユニットベースに取り付けるとき、ケーブルコードを挟まないようにしてください。



コントロールユニット



小ネジD

モーターカバーを取り付け電源ケーブルを接続します

- 本体にモーターカバーをかぶせ、M4 ネジ（1本）で固定します。

△注意 モーターカバーは本体の手前からかぶせてください。

- 電源ケーブルを本体前部に取り付けます。
- 電源プラグをコンセントに差し込みます。

本製品の電源についてはスタート編7ページ「電源について」をご覧ください。



ハンドルマストをしっかりと固定します

△注意 走行ベルトに乗ってボタン操作は行わないでください。
作業中、走行ベルトには決して乗らないでください。

- 本体前面の電源スイッチをオンにします。
- セーフティーキーをセーフティーキーポイントに張り付けます。

△注意 セーフティーキーを張り付けなければ電源が入りません。

- POWER ボタンにタッチします。
メインディスプレイに数字が表示されることを確認してください。
- START ボタンをタッチします。
走行ベルトが動き出します。
- INCLING + ボタンを押し続け、傾斜を 16% にします。
本体がゆっくり上がっていくので動きが完全に止まるまでお待ちください。

△注意 本体が完全に止ったら、それ以上コントロールユニットのボタンには触れないようにしてください。

- 本体前面の電源スイッチをオフにします。
- 左右のハンドルマストのナット ③、⑤ をしっかりと締めます。

△注意 ナットを固定したら本体の下に工具類を置いていないか確認してください。

- 本体前面の電源スイッチをオンにします。
本体の傾斜がゆっくり下がり元の傾斜 0% の位置に戻ります。

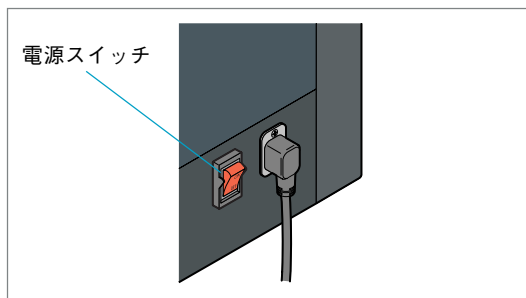
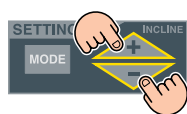
POWER ボタン



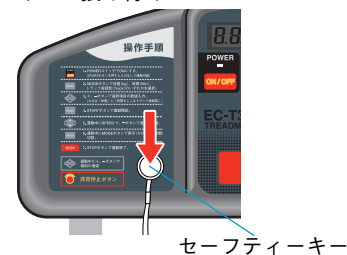
START ボタン



傾斜の増加



セーフティーキーの張り付け



ハンドルマスト (左)



ハンドルマスト (右)



走行ベルトの左右位置を調整します

- 最後に走行ベルトの位置を調整します。
調整作業についてはリファレンス編 22 ページ「走行ベルトの左右位置確認」をご覧ください。

△注意 トレーニングは走行ベルトの調整ができてから行ってください。

オペレーション編

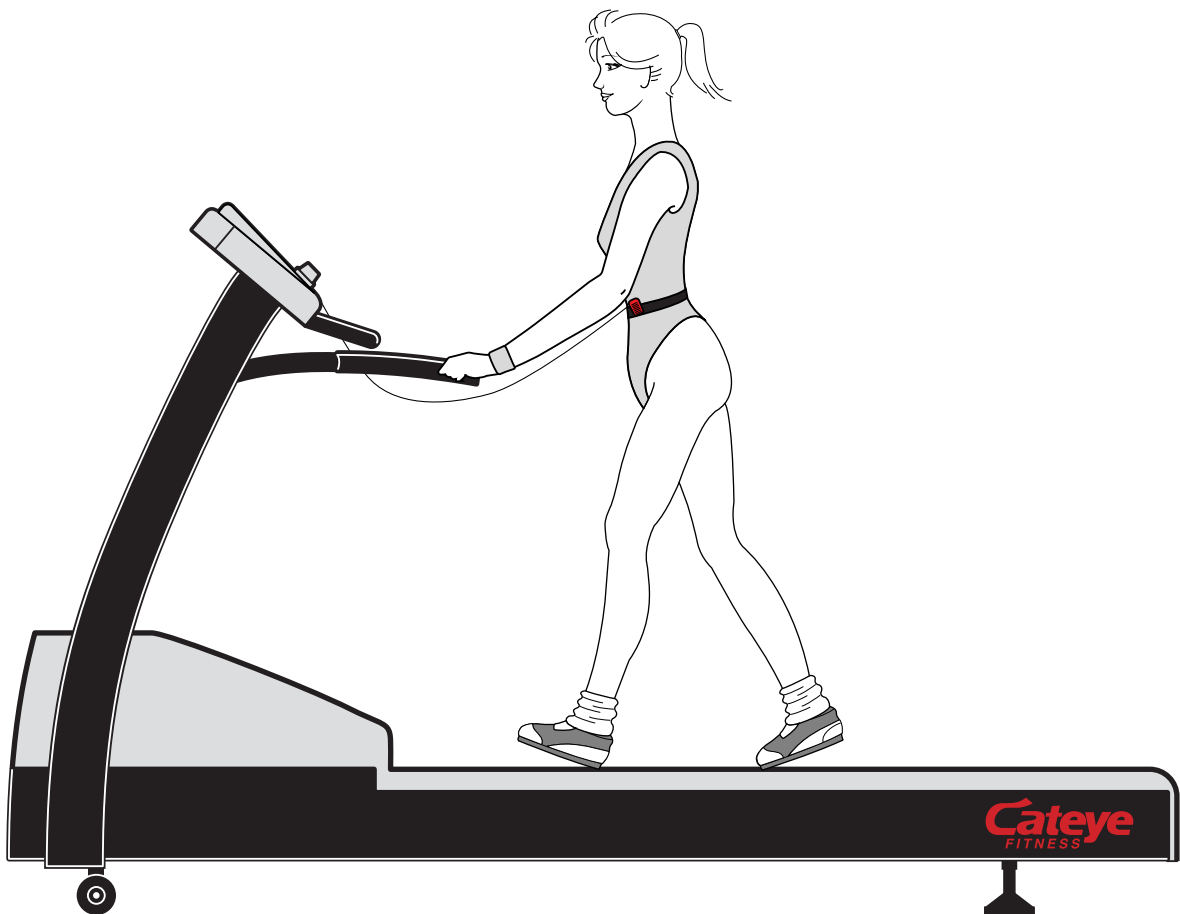
1	運動準備と注意事項	15
2	セーフティーキーの装着	16
3	クイックスタート	17
4	目標を設定してのトレーニング	19

1

運動準備と注意事項

△警告 走行ベルトに乗るときは必ず停止している状態で乗ってください。走行ベルトが動いている場合は、非常停止ボタンまたは終了ボタンで完全に停止させてから乗車するようにしてください。

1. 馴れないうちはハンドルをもって歩くような速度から始めましょう。
2. 馴れてきたら、手を放すか、添える程度にしましょう。
3. 走行ベルトの上をまっすぐ歩くまたは走る様、心がけてください。
△注意 走行中、走行ベルト以外の場所を踏むと転倒の恐れがありますので注意してください。
4. 走行速度が速くなるほど走行ベルトのスピードが速くなります。歩く速度が追いつかなくなってきたら駆け足に、それ以上になった場合は走ることが必要になります。
5. 操作ボタンから離れてしまうと非常停止ボタンや終了ボタンに手が届かずボタンが押せなくなることがありますので操作できる距離で運動してください。
△注意 馴れないうちは走行速度が上がると、走行ベルトの速度についていけない場合があります。早めに速度を下げてトレーニングを行ないましょう。それでも間に合わない場合は、非常停止ボタンで停止させる様にしてください。



2

セーフティーキーの装着

セーフティーキーにより緊急時のトラブルに対処することができます

トレッドミル EC-T330 はマグネット式の安全装置により、トレーニング中の予期せぬ事故、トラブルが発生したとき、マグネットが外れることで速やかに速度を落とし停止することができます。

トレーニングを行うときは、必ずセーフティーキーを装着してください。

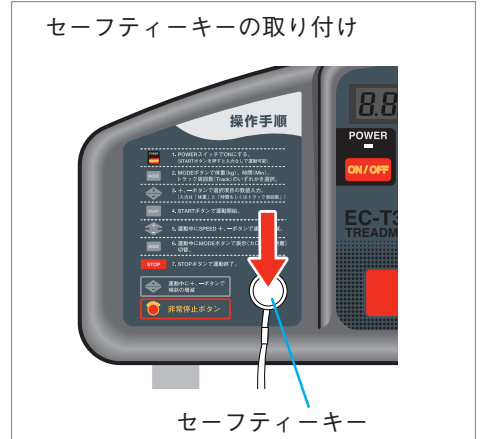
セーフティーキーの装着

手順に従って装着してください。

1

1. セーフティーキーのマグネットをコントロールユニットのセーフティーキーポイントに張り付けます。

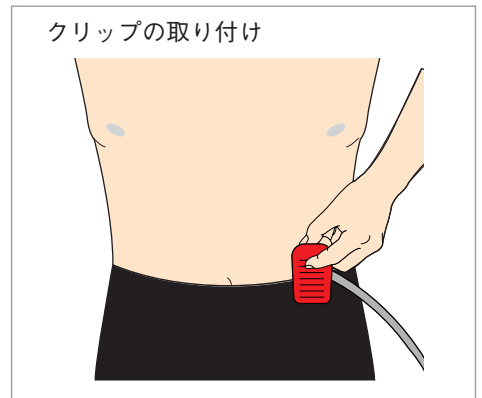
△注意 本製品は、セーフティーキーのマグネット部分をコントロールユニットのセーフティーキーポイントに張り付けなければ電源が入りません。セーフティーキーが紛失、故障した場合は、弊社又はお買い上げになった販売店にご相談ください。詳しくはリファレンス編 27 ページ「保証修理サービス／補修部品」をご覧ください。



2

2. セーフティーキーのクリップを腰のベルト部分に挟み込みます。ひもを引っ張っても、クリップが外れないことを確認してください。

△注意 セーフティーキーのクリップは、腰のベルト部分などの外れにくいところに装着してください。クリップが外れてしまうと、安全装置が作動しません。



3

3. セーフティーキーのひもの長さは走行エリアから出るとセーフティーキーが外れるくらいに調節します。ひもが長い場合は、ひもをくり長さを調節してください。

△注意 セーフティーキーのひもが長すぎたり、短すぎると安全装置が正しく作動しない恐れがあります。



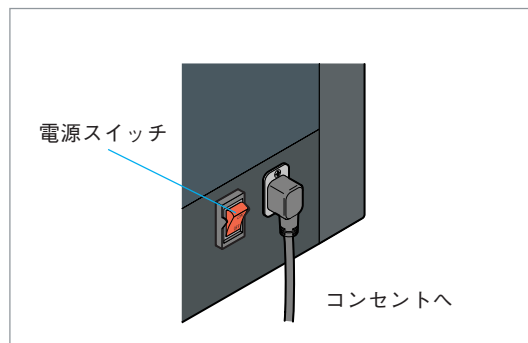
3

クイックスタート

1 電源スイッチを入れてセーフティーキーを装着します

⚠警告 濡れた手でコンセントにプラグを差し込まないでください。感電の恐れがあります。

- 本体前部に取り付けた電源ケーブルのプラグをコンセント (200 ~ 240 V) に差し込みます。
- 本体前面の電源スイッチを入れます。
- セーフティーキーを装着します。
セーフティーキーの装着方法はスタート編 16 ページ「セーフティーキーの装着」をご覧ください。



2 POWER ボタンにタッチして表示を確認します

- POWER ボタンをタッチします。

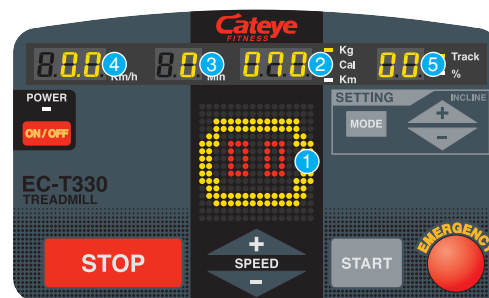
参考 POWER ボタンがオンになると現在の傾斜を確認する為、本体が少し振動します。

- コントロールユニットは図のような設定画面になります。
- 各画面にこれらの数字が表示されているか、確認してください。
 - ① メインディスプレイはカウントアップされていく数字が表示されます。
 - ② 距離/カロリー表示画面は「70.0」の数字が点滅されます。「70.0」は初期値であり、利用者の体重が 70 kg であることを意味しています。
 - ③ 時間表示画面はトレーニング中の運動時間が表示されます。
 - ④ 速度表示画面はトレーニング中の速度が表示されます。
 - ⑤ 傾斜表示画面はトレーニング中の傾斜%が表示されます。

POWER ボタンをオン



設定画面の初期表示



3 START ボタンをタッチしてスタートします

⚠注意 ボタン操作をするとき、必ず片手でハンドルを持った状態で行ってください。

- START ボタンをタッチします。
「ピッ」と音が鳴り、距離/カロリー表示画面に「00」、スピード表示画面に「2.0」の数字が表示され、メインディスプレイにカウントダウンが表示されます。
「00」は現在の走行距離、「2.0」は速度 2 km/h を表します。
- カウントダウン後、ゆっくりと走行ベルトが動き始め、それに合わせて歩き始めてください。速度は SPEED 十一ボタン、傾斜は INCLINE 十一ボタンで任意に変更することができます。歩きやすい速度/傾斜でトレーニングを行ってください。

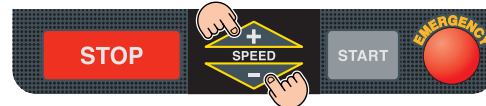
⚠注意 無理のない速度/傾斜で運動してください。

- メインディスプレイの中央には 200 m トラック周回数が表示され、周回数に合わせてカウントアップします。また周囲には、200 m のトラックが疑似表示され、走行距離に合わせてトラックの色が変わります。

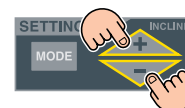
トレーニングのスタート



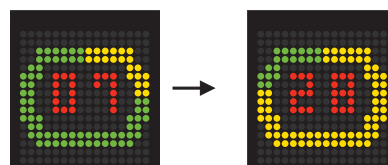
速度の増減



傾斜の増減



メインディスプレイ



4 MODEボタンをタッチして走行距離と消費カロリーの表示を切り替えることができます

- ・トレーニング中に、MODEボタンを押すと距離／カロリー表示画面が、走行距離から消費カロリーに変わります。もう一度押すと元に戻ります。

参考 消費カロリーの計算にはスタート前の体重の設定が必要です。ここでは体重 70 kg で自動計算されています。自分の体重を設定したい方は19ページ「目標を設定してのトレーニング」をご覧ください。

- ・しばらく乗ってみてください。時間の経過とともに距離／カロリーの数値が変わっていきます。
- ・トレーニング中に、走行ベルトの速さについていけないときは、SPEED－ボタンをタッチしてください。押す毎に0.1 km/h ずつ減速し、走行ベルトのスピードが緩やかになります。自分にあった速度に途中で変更することで、ギブアップせずに続けやすくなります。

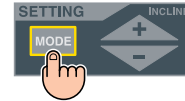
5 トレーニングを終了します

- ・トレーニングを終了するには任意にSTOPボタンをタッチします。走行ベルトがゆっくりと停止します。

参考 STOPボタンを押したときの速度によって停止までの時間が異なります。

- ・POWERボタンをタッチしてコントロールユニットの電源をオフにします。
- ・トレーニング終了後、しばらく使用しない場合は電源スイッチを切ります。

運動中の走行距離と消費カロリーの切替え



走行距離



消費カロリー



トレーニングの終了



4

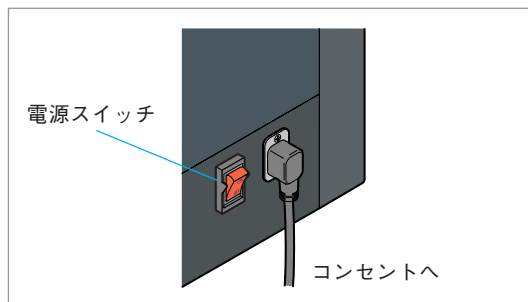
目標を設定してのトレーニング

最初にご説明したトレーニングは速やかにトレーニングを開始するものでしたが、自分の体重、運動時間もしくはトラック周回数を設定することで自分に合ったトレーニングを行なうことができます。

1 電源スイッチを入れてセーフティーキーを装着します

△警告 濡れた手でコンセントにプラグを差し込まないでください。感電の恐れがあります。

- 本体前部に取り付けた電源ケーブルのプラグをコンセント（200～240 V）に差し込みます。
- 本体前面の電源スイッチを入れます。
- セーフティーキーを装着します。
セーフティーキーの装着方法はスタート編 16 ページ「セーフティーキーの装着」をご覧ください。



2 自分の体重を設定します

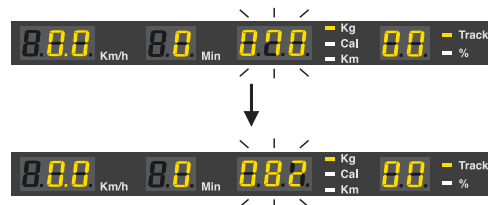
- 距離/カロリー表示画面には初期数値の「70」が点滅表示されています。

参考 点滅表示はその表示部が選択されていることを表します。

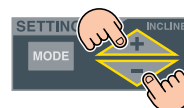
- 体重は SETTING 十ボタンで増減できます。
例えば SETTING 十ボタンをタッチし、表示している体重「70」を「82」に変更してみましょう。

△注意 体重だけ入力し START ボタンにタッチすると、運動時間もしくはトラック周回数を設定していない状態ですぐに運動が始まります。運動時間、トラック周回数を設定するときは START ボタンに触れないようにしてください。

体重の設定



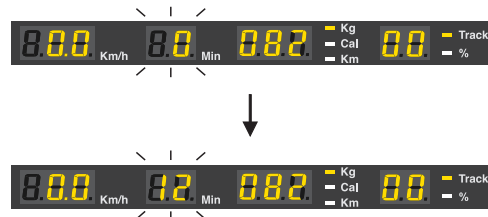
数字の増減



入力項目の移動



運動時間の設定



トレーニングのスタート



3 運動時間を設定します

△注意 トラック周回数を設定したい場合はもう一度、MODE ボタンをタッチしてください。運動時間と、トラック周回数はどちらか片方しか設定できません。

- MODE ボタンをタッチして時間表示画面を点滅状態にします。
- 時間の入力は、SETTING 十ボタンで行います。1 分単位で増減できます。
運動時間を 12 分に設定してみましょう。表示されている「0」から「12」に変更してください。

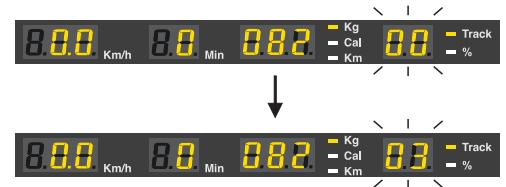
参考 運動時間はトレーニングの終了時間です。設定した時間が経過するとトレーニングは終了します。

トラック周回数を設定します

△注意 運動時間が設定されていた状態で、トラック周回数を設定すると、トラック周回数が優先され運動時間の設定は無効となります。

- MODE ボタンをタッチして、傾斜／トラック周回数を点滅状態にします。
- 周回数への入力、SETTING 十ボタンで行います。1 周（200 m）単位で増減できます。走行距離を 3 周（600 m）に設定してみましょう。表示されている「00」を「03」に変更してください。

トラック周回数の設定



トレーニングを開始します

- トレーニング条件の設定が終わったら START ボタンにタッチします。メインディスプレイにカウントダウンが表示され終了後、トレーニングが始まります。ゆっくりと歩き始めましょう。
- カウントダウン終了後、メインディスプレイは次の物が表示されます。

運動時間を設定した場合

現在の運動時間が表示されます。

トラック周回数を設定した場合

設定したトラック数が表示されます。

- 目標を設定したトレーニングでも任意に速度を変更することができます。速度を変更するには SPEED 十ボタンをタッチしてください。

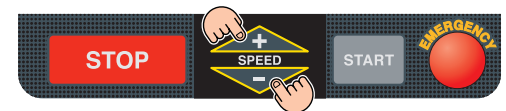
△注意 スピードが速くなり歩いても間に合わなくなったときは駆け足を始めてください。

- トレーニング中に MODE ボタンをタッチすると、距離／カロリー表示画面の表示を現在の走行距離と消費カロリーに交互に切り替えます。

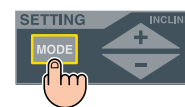
トレーニングの開始



速度の増減



走行距離と消費カロリーの切り替え



トレーニングを終了します

- 設定した運動時間、もしくはトラック周回数を満たすとアラームが鳴り走行ベルトがゆっくりと停止します。

参考 トレーニング終了時の速度によって停止までの時間が異なります。

- 設定した運動時間、トラック周回数が終了すると走行ベルトは自動停止しますが、傾斜をあげていた場合は、STOP ボタンを押して傾斜を下げてください。
- POWER ボタンをタッチしてコントロールユニットの電源をオフにします。
- トレーニング終了後、しばらく使用しない場合は電源スイッチを切ります。

トレーニングの終了



リファレンス編

1	日常メンテナンス	22
2	定期メンテナンス	24
3	トラブルと処理	25
4	取扱上の注意	26
5	保証修理サービス／補修部品	27
6	製品仕様	28

1

日常メンテナンス

本製品を安全にご利用いただくために、トレーニング開始前もしくは終了後には以下の手順で日常メンテナンスを行ってください。

△警告 メンテナンスを行うときは、必ず電源スイッチをオフにして、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

外観の清掃

- ・乾いた布でコントロールパネル、走行ベルト、ハンドルなどを拭いて掃除します。

△注意 特にトレーニング後は、多くの汗が付着しているので、丁寧に汚れを拭き取るようにしてください。

本体のガタつき、電源ケーブルの確認

- ・ハンドルマストと本体など、各 부품の取り付け箇所に緩みがないか確認してください。

参考 各 부품の取り付け箇所はスタート編 8 ページ「組立から始めましょう」をご覧ください。

- ・電源ケーブルに痛みがないか確認してください。

走行ベルトの左右位置確認

- ・走行ベルトが走行板の中央に位置しているか、緩みがないか確認してください。走行ベルトが左右どちらかに片寄りがある場合、以下の手順で調整を行います。

△注意 走行ベルトに乗ってボタン操作は行わないでください。走行ベルトを調整する際は、手を挟まないように注意してください。

1. 本体前面の電源スイッチを入れます。
2. POWER ボタンをオンにします。
3. START ボタンにタッチします。走行ベルトが動き出します。
4. SPEED + ボタンを押し続け、速度を 16 km/h にします。
5. しばらく走行させ、走行ベルトが片寄らないか確認します。
6. 走行ベルトが右に片寄ったら右のエンドキャップ内の調整ネジを締め（または左の調節ネジを緩め）、左へ片寄ったら左のエンドキャップ内の調整ネジを締め（または右の調節ネジを緩め）ます。
7. 約1分ほど様子を見て片寄りが取れたり、片寄りが見られない場合は、STOP ボタンを押し、調整を終了します。

START ボタン



速度の増加



走行ベルトの磨耗確認と交換

・走行ベルトに傷や過度の摩擦がないか確認します。

参考 走行ベルトはトレーニングを行うたびに、摩擦でゴムが削れてゆきます。走行ベルトに磨耗や傷が目立ってきたらベルトの交換時期です。

・走行ベルトの交換手順は以下の通りです。

1. モーターカバーと本体左右のエンドキャップを外します。
2. 左右の調節ネジ（2本）を反時計方向に走行ベルトが緩くなるまでまわします。（①）
調節ネジを緩めていくと徐々にリアローラーが前方向に移動します。（②）
3. 走行ベルトが緩くなったことを確認し、本体の側面から走行板を抜き取ります。（③）

注意 走行板を抜き取る際は、手を挟まないよう注意してください。

4. 左右の調節ネジ（2本）を完全に取り外し、リアローラーを本体中央に移動します。（④）
5. 本体前側のフロントローラー固定ネジ（2本）を取り外し、フロントローラーを本体中央に移動します。（⑤）
6. 走行ベルトを緩みを大きくし、走行板と同じように本体の側面から走行ベルトを抜き取ります。（⑥）
7. フロントローラーとリアローラーを軽く持ち上げ、本体とフロントローラーの間に新しい走行ベルトを差し込みます。
8. フロントローラーと本体のネジ穴を合わせ固定ネジ（2本）で固定します。
9. リアローラーと本体のネジ穴を合わせ調節ネジ（2本）で固定します。

参考 調節ネジは後で走行ベルトの位置調節を行うので強く締める必要はありません。

10. 走行ベルトの隙間に走行板を差し込みます。
走行板が走行ベルトの間にきちんと乗っているか確認してください。
11. モーターカバーと本体左右のエンドキャップを取り付けます。
12. 走行ベルトの交換後は、必ず走行ベルトの位置調節を行います。
リファレンス編22ページ「走行ベルトの左右位置確認」をご覧ください。



2 定期メンテナンス

本製品を安全にご利用いただくために、以下の手順で定期メンテナンスを行ってください。

⚠警告 メンテナンスを行うときは、必ず電源スイッチをオフにして、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

1 本体内部の清掃

1
カ
月
毎

- ・モーターカバーを開け、本体左側のプーリー、フライホイール、本体前面のファン周囲のホコリを掃除機で取り除いてください。

3

トラブルと処理

△注意 本製品の修理は、電気の専門知識を持つ管理責任者が行うようにしてください。

△警告 感電の恐れがあります。
管理責任者に無断でケーブル類を取り外さないでください。

トラブルと処理

次の場合は故障ではありません。修理を依頼される前に一度ご確認ください。

トラブル	対策
電源が入らない	電源プラグは接続されていますか？コンセントにプラグが正しく差し込まれているか確認してください。 セーフティーキーをセーフティーキーポイントに張り付けていますか？16ページ「セーフティーキーの装着」を参照し、セーフティーキーを正しく装着してください。
走行ベルトに服が挟まったら	すぐに EMERGENCY ボタンを押してください。
傾斜コントロールが効かない	本体前面の電源スイッチを入れ直してください。 エレベーションネジに何か挟まっていますか？異物が挟まっている場合は取り除いてください。 エレベーションネジが乾いていませんか？エレベーションネジが乾いている場合は注油してください。
傾斜途中で止まったら	本体前面の電源スイッチを入れ直してください。
走行ベルトが動かない	本体前面の電源スイッチをオフにして、約30秒ほど待ってから電源を入れ直してください。 ケーブルが外れていませんか？正しく差し込まれているか確認してください。
マシンが止まらない	本体前面の電源スイッチをオフにして電源プラグを抜いてください。 弊社またはお買上になった販売店にご相談ください。
走行ベルトが左右どちらかに片寄っている	22ページ「走行ベルトの左右位置調節」を参照し、走行ベルトが走行板の左右左右中央に位置するように調整を行います。

※上記の対策を行ってもトラブルが解消できない場合には、弊社またはお買上になった販売店にご相談ください。

4

取扱上の注意

取扱上の注意

末永くご愛用いただくために、次のことをお守りください。

- △注意 ・ 本体やコントロールユニットは分解しないでください。故障した場合は、弊社またはお買上になった販売店にご相談ください。
- ・ 高温多湿のところ、水のかかるような所でのご使用はお避けください。
- ・ 電源ケーブルはていねいに取り扱いってください。引っ張ったりするとコードが断線することがあります。
- ・ 使用しないときは電源スイッチをオフにし、電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。
- ・ 走行ベルトがサイドレールに接触している場合、走行ベルトの消耗が早くなります。ご使用前に走行ベルトの調整を実施してください。
- ・ 本体をシンナー、ケロシン、ガソリン、アルコールなどの有機溶剤で拭かないでください。汚れたときは中性洗剤を含んだ布で拭いた後、乾いた布でよくカラ拭きしてください。
- ・ 本体を直射日光の当たる所に置かないでください。
- ・ モーターカバーに足を乗せたり、座らないようにしてください。

保証修理サービスについて

- ・株式会社キャットアイはお買い上げいただいたトレッドミル EC-T330 が、お買上の日から1年間、ドライブモーターとインバーターにおいては2年間、通常の使用状態において材質および製造上の欠陥により万一故障したときは、別紙保証書記載の内容で商品／装置の修理・交換を致します。
- ・保証修理サービスが必要となられた際は、弊社又はお買上になった販売店にご相談ください。
- ・保証対象は本体のみで、付属品は対象とはなりません。

補修部品

メインモーター (部品 No.0397200) 	V リブベルト (No.0298410) 	走行ベルト (No.0298400) 
走行デッキ (サイドレール付き) (No.0298450) 	モーターカバー (No.0298460) 	緊急停止ボタン (No.0397230) 
フロントローラー (No.0298420) 	リアローラー (No.0298430) 	ハンドグリップ (No.0298490) 
エンドカバー (左) (No.0098100) 	エンドカバー (右) (No.0098110) 	電源コード (No.0452350) 
コントロールケーブルセット 	安全マグネットセット (No.0298480) 	



製品仕様

項目	仕様		
電源	A C 200 ~ 240 V 50 / 60Hz		
消費電力	最大 15 A		
モーター	3.0 馬力 A C モーター		
表示方式	ドット表示	緑色・赤色・橙色 LED 表示	
	数値表示	緑色 LED 表示	
表示機能	数値表示		
	傾斜	00 ~ 16 % (1 % 毎)	
	速度	0.5 ~ 16.0 km/h (0.1 km/h 毎)	初期値 2.0 km/h
	時間	00 分 ~ 99 分	
	距離	00 ~ 99.9 k m	
	消費カロリー	00 ~ 999 kcal (推定計算値)	
	トラック周回数	00 ~ 99 回	
	体重	~ 150 kg	
データ入力方法	タッチスイッチ方式		
安全装置	1:押しボタンによる非常停止		
	2:セーフティキー (マグネット式クリップ)		
運動プログラム	マニュアル	速度・傾斜が一定のトレーニング (ボタン操作により変更可能)	
	運動時間設定	運動時間設定によるトレーニング	
	トラック周回数設定	トラック周回数設定によるトレーニング	
アラーム機能	セーフティキー作動時		
ブザー音	タッチスイッチ操作音、非常停止操作音、トラック周回音 (1 周毎)、時間経過音 (1 分毎)		
使用体重制限	150 kg		
寸法/重量	全長	2070 mm	
	全幅	800 mm	
	高さ	1465 mm	
	走行範囲	500 × 1460 mm (幅×長さ)	
	重量	197 kg	
	部品仕様	走行板	フェノール樹脂コーティングタイプ
	クッション	ゴム製クッション×6	
	ローラー	89 mm 業務用大型タイプ	

Design Pat.Pending

※仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

- ・「キャットアイ」は (株) キャットアイの登録商標です。
- ・この製品は日本仕様となっております。海外ではご使用にならないでください。
海外向けの製品については直接弊社へご相談ください。

Copyright© 2006
Cateye Co., Ltd.
Printed in Japan
ECMJT33-090910-4



株式会社 キャットアイ

〒 546 大阪市東住吉区桑津 2 丁目 8 番 25 号

PHONE: (06) 6719-2638

FAX: (06) 6719-2362